

# i land Fill

Vol. 18

新しい  
処分場をつくるのに  
いくらかかるの？

## 特集 フェニックスセンターの事業



大阪沖埋立処分場から

大阪湾フェニックス計画では、一般廃棄物及び産業廃棄物を広域的に海面埋立処分することにより、快適な都市環境の確保と新たな大地を創造し、近畿2府4県の168市町村(近畿圏の全面積の約97%)、約2,000万人(全人口の約96%)のごみを受け入れています。排出元からの廃棄物の輸送は「廃棄物の輸送時間を最小とすること」、「特定の搬入基地への集中を避けるため、可能な限り分散させること」を原則としており、搬入基地ごとに受入区域を定めています。

高度経済成長(昭和40年代)にともなって、大量生産・大量消費により廃棄物量が増大しましたが、近畿圏の内陸部では高密度な土地利用が進んでおり、個々の自治体などは最終処分場を確保することが難しい状況でした。

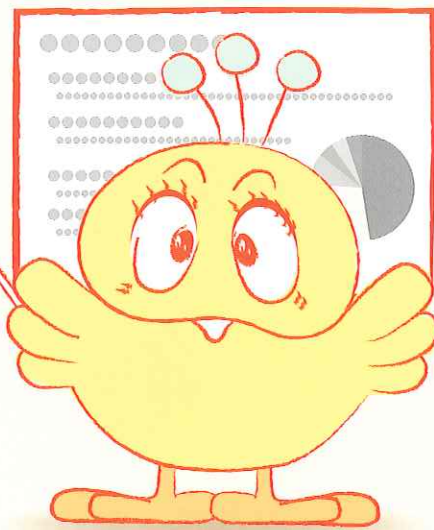
一方、港湾部では都市部の発展と経済活動を支えるための港湾機能の整備・拡充が求められ、新たな用地の確保が必要となっていました。

これらの背景もあり、廃棄物の適正処理と港湾の整備という観点から大阪湾フェニックス計画が具体化し、関係自治体及び港湾管理者からの出資と国の認可を受けて、昭和57年に当センターが発足しました。

当センターは、港湾管理者・地方公共団体などの委託を受けて、廃棄物等による海面埋立てにより土地の造成を行い、最終埋立処分場や搬入施設等の維持および管理を事業としています。設立から30年、平成2年の埋立開始から23年が経過し、社会情勢も大きく変化していますが、快適な都市環境を実現するため今後も廃棄物の適正な最終処分を行うことはもとより、長期的かつ安定的な事業運営を目指していきます。



大阪沖埋立処分場



受入対象区域

A.

一番新しくできた大阪沖埋立処分場は、護岸建設費が880億円、場内の管理施設・排水処理施設や揚陸施設などの設置に97億円の費用がかかっています。同等の処分場の建設には約1,000億円の経費が必要と考えられます。また、着工に至るまでの手続きや建設期間など開業までに約10年ほどかかるので、今ある埋立処分場を少しでも長く使うことが大切です。

学ぼう!

海外からの視察【シンガポール】

私

た

ち

に

できること

平成24年4月17日(火)、シンガポール国家環境庁環境保全局Hock局長他、3名の視察団が当センターを訪問し、埋立処分場(大阪沖)・搬入基地(大阪基地)を視察し、センター職員との意見交換、技術交流を図りました。

シンガポールにおいても、3R活動は推進されていますが、増加する廃棄物量に対応するため、唯一の海上最終処分場であるSemakau



大阪沖埋立処分場視察

landfillの拡充等、将来において処分場の確保が重要な課題となっていることから、日本の最新のデザインや優良技術事例を学ぶために来訪されました。

今回の来訪は、シンガポール側からの要望によるセンターとの意見交換を踏まえ、実際に現地での埋立施工技術、環境管理、安全対策などを視察することにより、専門的な技術交流を深める場となりました。



大阪基地視察

## 環境イベントでお待ちしています!!

当センターは、近畿2府4県168市町村から排出される廃棄物を安全かつ安定的に処理することにより、市民生活の環境保全に大きな役割を果たしています。

そこで、府県や市が開催する環境イベントと連携し、スライドショーやDVDの放映を通して、広くセンター事業の紹介や3R活動の必要性を伝えています。そのひとつとして昨年10月15日～16日にメリケンパークで開催された「ひょうごエコフェスティバル2011」では、「ごみのゆくえ」と称したスライドショーに沢山のご参加をいただき、フェニックス事業への理解を深めていただくとともに、3R活動の必要性をお伝えすることができました。

今年も各地の環境イベントと連携していきますので、ぜひこれらの環境イベントにご参加いただきますようお願いいたします。オリジナルグッズのプレゼントも用意してお待ちしています。

オリジナルグッズの一例



マイボトル



ソーラーライト



ボディタオル



マイ箸セット



ひょうごエコフェスティバル2011(スライドショーの模様)

| イベント名             | 主催者  | 開催日      | 会 場         |
|-------------------|------|----------|-------------|
| 国際フロンティア産業メッセ2012 | 神戸市等 | 9/6～7    | 神戸国際展示場     |
| ECOフェスティバル        | 大阪市  | 10/13    | 大阪城公園 太陽の広場 |
| びわ湖環境ビジネスメッセ2012  | 滋賀県  | 10/24～26 | 長浜ドーム       |
| リサイクル・フェア         | 伊丹市  | 10/27    | スワンホール体育館   |
| ひょうごエコフェスティバル2012 | 兵庫県等 | 11/10～11 | 姫路城 大手前公園   |
| 京都環境フェスティバル2012   | 京都府等 | 12/8～9   | 京都パルスプラザ    |



## ..... 第4回『マイ箸』.....

私たち自身は、どのようにして3R活動を行っていけばよいのでしょうか？

今回は、私たちが毎日使っている「お箸」を通して、考えてみました。

食事に用いる身近な道具である「お箸」から、環境問題を考え、行動につなげようとさまざまな取り組みが行われています。3R促進プログラムとして、マイ箸によってリユース(再利用)して、リデュース(発生抑制)につなげようとする取り組みもその中の一つです。

皆さんは、日本ではどれくらいの割り箸が使われているかご存知ですか？

1年間に約250億膳の割り箸が使われています。これは、標準的な2階建て木造住宅2万棟に相当する量です。国民一人

割り箸 ×



マイ箸 ○



## 小学生新聞に掲載されました!!

朝日小学生新聞の日刊版(平成24年6月4日)および同教材版夏号に、フェニックスセンターの記事が掲載されました。タイトルは「ごみのゆくえ」。まさしく以前よりフェニックスセンターが実施している講座のタイトルと同じで、3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)を啓発する内容になっています。

家庭から出たごみは市町村の焼却施設で燃やされますが、完全になくなるわけではなく、10%程度が灰として残りますので、必ずこの灰を処分するところが必要になります。フェニックスセンターでは、大阪湾内で4つの埋立処分場を管理運営していますが、計画では平成39年度に満杯になってしまいますので、埋立処分場を長く使用するには、ごみを分別して出すことや3R活動をすすめることが大切です。

また、記事にも紹介されていますが、フェニックスセンターでは海域の水質検査などによる環境保全対策を行い、護岸を工夫した生物が住みやすい環境も造っています。また、埋め立てたあとにできた一部の土地は公園や野外コンサート会場などに利用されています。





## h2&gt;ビーチバレーからの海辺の文化振興

さいき みか  
日本ビーチ文化振興協会 理事 佐伯 美香

1996年 アトランタ五輪 バレー日本代表(元ユニチカ)  
2000年 シドニー五輪(4位) ビーチバレー日本代表  
2008年 北京五輪 ビーチバレー日本代表

初めてビーチバレーを経験したのは、20歳のユニチカ選手時代。当初まだビーチバレーも見ただことのないという時代。「海に親しむ公園」として整備された大阪淡輪海岸にあるせんなん里海公園内の「潮騒ビバレー」は観客3,000人を収容できる国内唯一のビーチスポーツ施設である。当初、初心者同然の私はこんな立派なコートでプレーできるのかと、ドキドキ、ワクワクしたことを思い出す。ユニチカ貝塚という淡輪に近い環境が相成り、真夏の暑い体育館で練習している選手たちの冷たい目線を横目に心弾ませ海への練習に足を運んだ。当初本格的にビーチバレーをしている選手もおらず、何度かビーチで練習できたおかげで賞金100万円を手にしてチームに戻った。

私にとっての初ビーチバレー体験は、大きく心を揺さぶる魅力がたくさんあった。何より体育館にはない自然いっぱいの開放感。照りつける太陽、潮風、心地よく足裏を刺激してくれる砂。そんな自然が時として敵となり味方となるビーチバレーは思うようにプレーできない砂の上での自分を本気へと誘った。

1996年アトランタオリンピック6人制バレーで初出場。予選敗退という悔しさが、もう一度オリンピックに出場したいという想いをかき立てビーチバレーへ転向した。それからはメダリストとなることを目標に本格始動し1年中ビーチを求めて世界中を合宿、試合で転戦した。

世界のビーチを体感し、日本とはまた違う魅力を感じた。60、70歳のお爺さんがビーチバレーをする姿。ビーチ脇にあるコンクリートロードでローラーブレードを履き、乳母車を押しながら海の風を感じ滑りを楽しむ人。ビーチパラソルを広げ、読書に親しむ人、早朝より砂の上を裸足で太極拳をする人、ビール片手に美味しい海の幸を食べる人、など。健康づくり、癒し、食と様々な面でビーチには老若男女間

わず、人間の欲求を満たしてくれる要素がたくさんあるということを知った。ビーチがフィールドとなった私は、自然に親しみ、自然を愛し、自然を大切にする心が改めて宿った。

地球温暖化の影響で海辺の面積が年々狭くなっている。食い止めるためにもエコ活動を推進し、より活動しやすいビーチになるよう心掛けている。自分でできる事と言えば小さな事であるが、海岸で出したゴミは必ず持ち帰ることを啓発している。また、海藻や石ころ、貝殻などは自然に還すように心掛ける。大きな諸問題に関しては何も手をつけられないが、まずは海岸でのルールづくりをする必要があり、習慣化することを目指している。陸内の交通ルールでは信号が赤になったら止まれ、青になったら進め、という子どもから大人までの共通ルールがあるように、海岸でゴミを見つけたら拾い処分し、自分で出すごみは持ち帰る、という具合である。

各自が認識しやがては皆が当然のように習慣づくことで自然回帰に繋がり、美しい海岸に通年人々が集うことになる、と信じている。

1年を通じて海辺に人が集う、21世紀の海辺の文化が日本中に広まることで、ビーチバレーオリンピックの創出の大きな足掛かりになるし、子どもの頃から裸足になって自然に遊ぶことで、健康かつ素直で真のあるスポーツマンが育つことであろう。私は海辺を愛する一人として、これからも海辺文化振興に努めて参りたいと思う。



## h2&gt;編集後記

当センターは、廃棄物の最終処分を適正に行うことによって、街中にごみがあふれることのないように、皆さんの生活環境の保全に努めています。社会的に大切な役割を担っていると考えています。しかしながら、永遠に最終処分できるわけではありませんので、ごみが最終的にたどりつく場所を皆さんが常に意識することにより、ごみ減量に向けてすべきことが見えてくるのではないのでしょうか。

ごみが最終的にたどりつく場所「フェニックス埋立処分場」では、見学の受付もしていますので、ぜひご活用ください。

ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol. 18

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター  
「フェニックスセンター」

<http://www.osakawan-center.or.jp>

〒530-0005

大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階

T E L 06-6204-1721 (代)

F A X 06-6204-1728

E-mail [phoenix@osakawan-center.or.jp](mailto:phoenix@osakawan-center.or.jp)

i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。



2012.9